

忍者のすべてが、ここにある——

忍者の修行法から忍者マンガまで、  
硬軟自在に描いた死角なしの研究集成

## 編者紹介

### ✦ 山田雄司

1967年静岡県沼津市生まれ。京都大学文学部卒業、筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了。現在、三重大学人文学部教授・国際忍者研究センター副センター長。専門は日本中世信仰史。2012年から忍者研究に携わり、国内外で調査・講演を行う。著書に『崇徳院怨霊の研究』（思文閣出版、2001年）、『怨霊・怪異・伊勢神宮』（思文閣出版、2014年）、『忍者の歴史』（KADOKAWA、2016年）、『忍者の精神』（KADOKAWA、2019年）、『実践！忍術の手引き』（BABジャパン、2022年）などがある。

### ✦ 三重大学国際忍者研究センター

伊賀地域を中心として忍者に関する教育研究を推進し、その成果を広く国内外に発信することにより、国際的な忍者研究の拠点として機能するとともに、伊賀の地域創生に資することを目的として、2017年に設立された。具体的な活動として、忍者や忍者の史資料に関するデータベースの構築や、史資料に関する調査研究があり、ときに、忍術書の内容を科学的に実験検証するなど、文系理系の各専門分野の教員が協力して研究活動を進めている。

## 本書の特色

- ✦ 史資料の丹念な分析にもとづく歴史学的アプローチのみならず、当時の最先端の「科学」とされる忍術を医学・工学・天文学・兵法など多彩なアプローチで忍者の実像に迫る。
- ✦ 忍者の存在を広く海外に知らしめた忍者マンガやゲーム、さらには映画や小説といった文化・文芸的側面にも注目し、尽きることのない忍者の魅力を語る。
- ✦ 忍者学研究を牽引する山田雄司氏を筆頭に、秘伝書『万川集海』の監訳で知られる中島篤巳氏、甲賀忍術最後の正統継承者である川上仁一氏ら、望みうる最高の執筆陣が集結。

## 【注文書】

|              |                                            |         |      |
|--------------|--------------------------------------------|---------|------|
| [書店名] (取次番線) | <b>忍者学大全</b>                               |         | ご注文数 |
|              | 定価8,250円(本体7,500円+税) ISBN978-4-13-053303-4 |         | 冊    |
|              | [ご芳名]                                      | [お電話番号] |      |
| [ご住所]        |                                            |         |      |

東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29 TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991 <https://www.utp.or.jp/>



定価 8,250円 (本体7,500円+税)

A5判・縦組・上製・544頁

ISBN978-4-13-053303-4

2023年2月下旬刊行予定

忍者・忍術学  
はじめての  
研究集成!!



✦ 作家  
**和田 竜**

「小説を書く前に読みたかった」

山田雄司 [編]  
三重大学国際忍者研究センター [監修]

# 忍者学大全



「忍者・忍術がはじめて学際的に  
学問として取りあげられたのではないか」

✦ 歴史学者・静岡大学名誉教授  
**小和田哲男**

軍略・暗号、さらには最先端の科学まで操る異端として歴史を動かし、  
漫画・小説・映画などを通じて愛されてきた忍者（Ninja）。

いまや国内ばかりでなく、海外からも注目されている。

各分野の第一人者が、その実像と虚像のすべてを描いた忍者研究の決定版。

東京大学出版会



小和田哲男

(歴史学者・静岡大学名誉教授)

戦国時代史を研究している一人として、忍者の活躍ぶりはよく目にしていた。情報蒐集や、実際の城攻めの様子が軍記物などには描かれている。しかし、それらがどこまで本当のことなのか、半信半疑といった目でみていたというのが正直なところだった。本書によって、忍者・忍術がはじめて学際的に学問として取りあげられたのではないかと思われる。戦国史研究の進展に寄与する一冊として、多くの人にお薦めしたい。

和田 竜

(作家)

戦国時代の忍者の小説を書いた僕が訊かれるのは、「忍者は本当にいたのか。どういう働きをしていたのか」ということだ。この本には、その質問の答えとなるであろう忍者の実態や忍者の持つ技について記されているだけではない。戦がなくなった時代の忍者のこと、あるいは時代によつて移り変わる忍者のイメージなど、様々な角度からスポットを当て、忍者像を立体的に浮かび上がらせている。小説を書く前に読みたかった。

目次

はじめに——忍者・忍術学とは何か

山田雄司(三重大学文学部教授・三重大学国際忍者研究センター副センター長)

第I部 忍者の虚実

第一章 忍術書を読み解く

- 一・一 忍術書成立に対する兵法書の影響——『万川集海』と『軍法侍用集』を比較して 福島嵩仁(国際忍者学会運営委員)
- 一・二 忍術伝書解説——紀州徳川藩『合武伝法急勸喫物見の巻』 中島篤巳(国際忍者学会会長)
- 一・三 兵学書と忍術書における座標型の換字式暗号 吉丸雄哉(三重大学文学部教授)
- 一・四 伝承された忍術の修行法について 川上仁一(三重大学産官学連携アドバイザー、伊賀流忍者博物館名誉館長)

第二章 忍者文学から忍者映画まで

- 二・一 忍術雑記集——現代日本で忍術を評した人々 酒井裕太(三重大学国際忍者研究センター職員、国際忍者学会運営委員)
- 二・二 近世実録と忍者——孫子・軍学者・講釈師 高橋圭一(大阪大谷大学名誉教授)
- 二・三 忍者マンガの系譜——忍術マンガからNINJAMANGAまで 橋本 博(合志マンガミュージアム館長)
- 二・四 東映忍者史 山口記弘(東映株式会社経営戦略部フェロー)
- 二・五 芭蕉忍者説の周辺 岡本 聡(中部大学文学部教授)
- 二・六 秘術の叙法と視覚情報——昭和三〇年代忍法小説の表現と挿絵 牧野 悠(帝京大学宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター講師)
- 二・七 忍者と暗殺——杉谷善住坊と音羽の城戸 クバーソフ・フォードル(元・三重大学国際忍者研究センター研究員)

第三章 現代忍者

- 三・一 近代日本の霊術運動と藤田西湖 一柳廣孝(横浜国立大学教育学部教授)
- 三・二 陸軍中野学校と藤田西湖 山本武利(インテリジェンス研究所理事長、一橋大学名誉教授、早稲田大学名誉教授)
- 三・三 奇術と法術 河合 勝(奇術史研究家)
- 三・四 「忍術」への想像力——伊藤銀月と藤田西湖 森 正人(三重大学文学部教授)
- 三・五 「我ならざる我」を働かせる——伊賀の忍者は石になる 甲野善紀(武術研究者)
- 三・六 実学としての忍者学——防災教育への忍術の活用とその検証 三橋源一(三重大学地域イノベーション学研究院生博士後期課程)

第II部 忍者の科学と技術

第四章 医学・薬学・食

- 四・一 忍者の印と息長の効果の医学的検討 小森照久(三重大学名誉教授)
- 四・二 忍者食の設計デザイン 久松 眞(三重大学名誉教授)

第五章 火術

- 五・一 地蔵の火器・火術 荒木利芳(三重大学名誉教授)
- 五・二 忍者の情報伝達方法 加藤 進(三重大学産官学連携アドバイザー)

第六章 武具

- 六・一 隠し武具の世界 近藤好和(有職故実研究家)
- 六・二 弓の種類と目的に応じた射法 松尾牧則(筑波大学体育系准教授)

第七章 築城と忍者

- 七・一 伊賀・雲山山頂遺跡と歴史的層層性 伊藤裕偉(三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課副参事)
- 七・二 伊賀国における中世末・近世初頭の石塔・石仏 竹田憲治(三重県埋蔵文化財センター)
- 七・三 小犬狗清蔵について——その活動と天正伊賀の乱後の復興 瀧川和也(三重県総合博物館調査・資料情報課長(学芸員))

第III部 忍者の実像を探る

第八章 合戦戦略と忍者

- 八・一 戦国島津氏の忍びについて——「いくさ忍び」の事例と特質 桐野作人(武蔵野大学政治経済研究所客員研究員)
- 八・二 戦国期関東の忍びと特殊武装集団 岩田明広(埼玉県教育委員会)
- 八・三 島原・天草一揆と忍び 山田雄司

第九章 伊賀者の成立と各地の忍び

- 九・一 天下泰平の構造 藤田達生(三重大学教育学部・大学院地域イノベーション学研究科教授)
- 九・二 徳川幕府伊賀者の成立と展開 高尾善希(三重大学文学部准教授)
- 九・三 弘前藩の忍者が担った北日本の治安維持 清川繁人(青森大学社会学部教授)
- 九・四 福井藩の忍之者を創設した軍学者——井原番右衛門頼文という個性 長野栄俊(福井県文書館)

第一〇章 公儀隠密・御庭番と江戸期の忍び

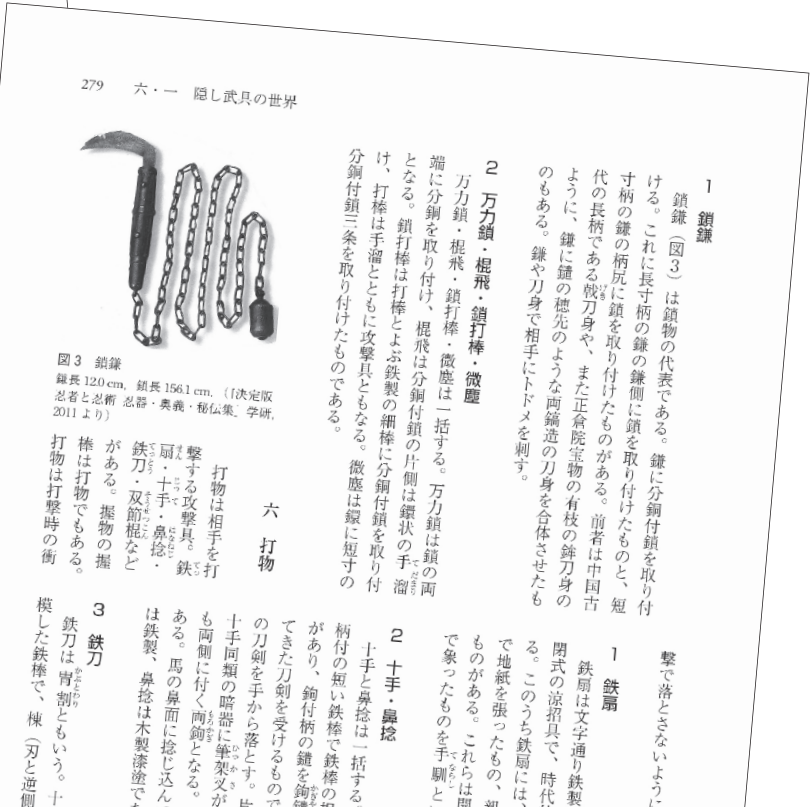
- 一〇・一 將軍直属の隠密、御庭番の実像 深井雅海(公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所所長、元・聖心女子大学教授)
- 一〇・二 伊賀者の町——鯉河橋谷町 福重旨乃(元・東京大学大学院情報学環特任研究員)
- 一〇・三 江戸時代の伊賀者——一揆探索の隠密御用 深谷克己(早稲田大学名誉教授)
- 一〇・四 甲賀の山伏と葉、そして忍術を考える 長峰 透(甲賀市くすり学習館館長)
- 一〇・五 彦根藩伊賀歩行の職務とその供給源をめぐる 東谷 智(甲南大学文学部教授)

第十一章 幕末維新期の忍び

- 一一・一 忍びたちの明治維新 井上直哉(国際忍者学会運営委員)
- 一一・二 幕末維新期の無足人の軍役と生活について——伊勢国無足人を事例に 藤谷 彰(元・三重県総合博物館)

付録 忍術書『軍法間林清陽巻中』と『万川集海』

忍者学用語集



1 鎖鎌  
鎖鎌(図3)は鎖物の代表である。鎖に分銅付鎖を取り付け、これに長寸柄の鎌の鎌側に鎖を取り付けたものと、短代の長柄である短刀身や、また正倉院室物の有枝の鎌刀身のように、鎌に鎌の穂先のような両端造の刀身を合体させたものもある。鎌や刀身で相手にトドメを刺す。

2 万力鎖・棍飛・鎖打棒・微塵  
万力鎖・棍飛・鎖打棒・微塵は一括する。万力鎖は鎖の両端に分銅を取り付け、棍飛は分銅付鎖の片側は鎖状の手溜け、打棒は手溜けとともに攻撃具ともなる。微塵は細い短寸の分銅付鎖三本を取り付けたものである。

3 鉄刀  
鉄刀は、割制という。十手の原型である。編造の刀身を模した鉄棒で、棟(刃と逆側)の柄際に片刃を付けた。

4 十手・鼻捻  
十手と鼻捻は一括する。十手は細い鉄棒の短寸柄の短い鉄棒で鉄棒の根元に片鉤が付く。鼻捻は、鉤付柄の鎌を鉤鎌という。この鉤は相手に打ち付け、刀剣を手から落とす。片鉤が付かない七三、小犬狗清蔵について——その活動と天正伊賀の乱後の復興

5 一 鉄扇  
鉄扇は文字通り鉄製の扇。扇は、開式の涼招具で、時代の変遷と相俟って、このうち鉄扇には、両側の親骨が、中骨で繋がったものがある。これらは開閉可能である。象つたものを手馴という。これは開閉可能である。象つたものを手馴という。これは開閉可能である。

6 一 隠し武具の世界  
隠し武具の世界は、戦国時代から江戸時代にかけて、忍者の活動と密接に関連している。この世界には、多くの隠し武具が存在し、それらは忍者の生存と活動に不可欠なものであった。

7 一 伊賀・雲山山頂遺跡と歴史的層層性  
伊賀・雲山山頂遺跡は、歴史的に重要な場所であり、多くの隠し武具が発見された。この遺跡は、忍者の活動と密接に関連している。

8 一 戦国島津氏の忍びについて——「いくさ忍び」の事例と特質  
戦国時代、島津氏の忍びは、忍者の活動と密接に関連している。この事例は、忍者の活動と密接に関連している。

9 一 伊賀者の成立と各地の忍び  
伊賀者の成立は、各地の忍びと密接に関連している。この事例は、忍者の活動と密接に関連している。

10 一 公儀隠密・御庭番と江戸期の忍び  
公儀隠密・御庭番は、江戸時代の忍者の活動と密接に関連している。この事例は、忍者の活動と密接に関連している。

11 一 幕末維新期の忍び  
幕末維新期の忍びは、忍者の活動と密接に関連している。この事例は、忍者の活動と密接に関連している。

忍は「花」のビュビュ  
(一九六七)から放映されて  
いる。昭和五七年(一九八  
八)アニメ化。この作品ではカム  
のこれまでの忍者、忍法マン  
タとして登場するなどのほ  
ち中でも忘れられない名作(迷  
は伊賀野カバ丸)もアニメ化  
は現在まで続く学園忍者アニメ  
である。実は子どもたちにとつて  
落第忍者乱太郎」とこのアニメ  
で忍者マンガのDNAを受け継  
ぐても過言ではない。  
本代からの忍者マンガの系譜を受  
けたのは学園忍者マンガであり、  
化アニメ化にあったことが挙げ  
ンガの時代  
NARUTO——ナルト  
以降、火となつていった忍者マンガは、  
に連載が始まった作品をきっかけに



図13 [NARUTO——ナルト] (岸本  
斉史、集英社)